

海外安全対策情報（平成27年10月～12月分）

1 自然災害

12月ころから、東ジャワ州のプロモ山の火山活動が活発化してきており、12月4日から、火山活動警戒レベルは上から2番目のレベル3「シアガ（警戒）」に引き上げられている。現在、観光地ともなっているプロモ山火口周辺は立ち入り禁止となっているほか、噴煙・火山灰の影響によりマラン市のアブドゥルラフマン・サレー空港が断続的に閉鎖をしていることから、同空港および周辺地域に行かれる際には最新情報の入手に努められたい。

なお、現在のところ、スラバヤ・ジュアンダ空港への大きな影響は発生していない。

2 社会情勢・治安情勢

（1）統一地方首長選挙の実施

12月9日、全国各地で行われた統一地方首長選挙については、混乱は見られず平穏に終わった。

（2）テロ情勢

現在のところ、当地において具体的なテロ脅威情報は無い。

しかし、9月には、イスラム過激派組織 I S I L が機関誌において、インドネシアなどに所在する日本の外交使節団（大使館等）を標的として例示したほか、国内においては、12月下旬、警察が I S I L 関係者とみられる者のテロ計画を摘発したことなどから、テロ情勢には引き続き注意する必要がある。

外出時には周囲の状況に気を配る（不審な人、不審な物がないか）ことが必要であるが、特にテロの標的となりやすい場所（政府・軍・警察関連施設、欧米関連施設、公共交通機関、デパート・モール、観光施設等）においては、より一層の注意を払う必要がある。

（3）治安情勢

東ジャワ州警察、スラバヤ市警察は、12月末、2015年の犯罪情勢を発表した。同報告によると、2014年と比較して、強盗、窃盗、自動車・バイク盗の発生件数は減少したが、これらの犯罪は引き続き犯罪の多くを占めていることから注意が必要である。

また、薬物事案の摘発件数は増加しており、薬物の蔓延が指摘されていることから、注意が必要である。

3 凶悪犯罪・一般犯罪の状況

（1）発生状況

邦人被害の事件は認知していないが、スラバヤ市及び近県においては、殺人事件をはじめとする凶悪犯罪も発生しており、強盗事件は屋内外を問わず引き続き発生している。また、ひったくりやオートバイ盗などの窃盗を中心とした一般犯罪は頻発している。

(2) 犯罪傾向

犯人はけん銃や刃物などの凶器を所持していることもあり、犯罪に遭遇した際は身の安全を第一にした対応が必要である。また、被害者の多くはオートバイや徒歩で移動中の者であることから、移動の際は、車両の利用（ドアロックをして）が望ましい。

4 テロ・爆弾事件状況

管轄内におけるテロ・爆弾事件は発生していないが、11月23日、スラバヤ市内のホテル（JW・マリオット、シャングリラ）宛てに、爆弾が爆発する旨のFAXが送られる脅迫事案が発生した。警察はホテル内外を調べたが不審物の発見には至らず、本件については引き続き捜査を行っている。

5 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の事件は認知していない。

6 対日感情

対日感情は基本的に良好であり、特段の変化は見られない。

7 日系企業の安全に関わる問題

日系企業の安全に関わる問題は認知していない。